

「氷山の一角」と医師が忠告

健康被害は5年で1000件以上も

医師による調査で
さまざまな「被害」が判明!

日本臨床整形外科学会の医療システム委員会が同学会所属の5771人を対象に実態調査をしたところ、2017年1月1日～2021年12月31日の5年間に129の医療機関から1177例の健康被害が報告された。以下は主な事例。

- マッサージなどが原因で骨折（脊椎圧迫骨折、肋骨骨折など）
- お灸などによるやけどやかぶれ
- 骨折や脱臼に気がつかずマッサージ
- がんの転移による腰痛にもかかわらず施術を継続
- 医者が出した薬の服用を中止させる
- 医者が処方した装具を無断で取り外す
- 医師免許がないのにエコー検査をして診断



になり、業務範囲外の、本来なら医師の範疇の施術を行っていることも健康被害が増えた一因だと思えます。

例えば長く続く腰痛や首の痛みなどは、本来は医療機関に行くよう促すべきなのですが、自分のところで施術している場合も多いという。

また、接骨院に行く人が高齢化していることも関係している。骨粗鬆症などで骨がもろくなっている場合、当然、マッサージなどで骨折しやすくなるからだ。ただ、これだけ

健康被害が出ていけば、接骨院側も強い指圧を避けるなど、注意をするのではないだろうか。

「実はいちばん問題なのは、自分たちがそうだった被害を出している事実が気がついていない可能性があるんです」

患者は接骨院でたとえ健康被害を受けたとしても、お世話になった手前、あまり表沙汰にしたくないと思う人が多いのだという。同じところにまた行くことはさすがにないが、わざわざ「ケガをした」

と行くと行く人も少ないのだ。「それでは接骨院側が気がつくわけはありませんし、場合によっては、その患者さんがこなくなったのはマッサージで痛みがとれてよくなったからだと勘違いする場合もあるから、厄介なのです」

痛ければまずは医療機関で検査を

なぜそれでも接骨院に人は行くのだろうか。

いちばんの理由は安さだ。いわゆるもみほぐしをうたつ

た町のマッサージ店は3000円とか5000円とかかかるが、接骨院で保険を使った場合は5000円ほどで済むことも。大きな差だ。

「金額もそうですが、話を聞いてもらえるという点も魅力なのだと思います。私たち医者は患者さんの話をさすがに10分も20分も聞くことはできません。ですが、接骨院ではマッサージを受けながら話を聞いてもらえますから」

病院や医者の敷居を高く感じ、「腰が痛いくらいで病院に行つていいのかな……」と思う人もいるだろう。

「私たち医師側ももっと丁寧に話を聞くなど、反省すべき点はあると思っています。ただ、痛みがあるならまずは検査をして、病気があるのかわかるのか、診断をすべきです。そのためには医療機関にきてもらう必要があります。そのうえで、理学療法士などによる運動指導を受けられるのも医療機関特有の利点です」

痛みが出たら病院で検査が基本だが、検査して特に異常なしと言われたのに不調が取り除けなかったり、病気がないけどなんとなくくだらないといった場合は、じっくり時間をかけてくれるところもいいかもしれない。患者側が上手にチョイスして、目的に合ったサービスを受けることが大切だ。

「行くとケガする」



接骨院

医師たちが調べたところ、接骨院や整骨院でマッサージを受けて骨折などの健康被害に遭った件数は、5年で実に1000件以上。しかも「これは氷山の一角」だといふ。いったい接骨院の現場で何が起きてきているのか。「気軽に行つてはいけない」実態をリサーチした。

昨年12月、整形外科の医師たちが集まるシンポジウムである調査結果が公表された。

「接骨院や整骨院などで健康被害を受けて医療機関を受診した患者は、この5年間で1177例」

町の接骨院でマッ



手遅れになったケースも。かなり悪質だが、これは氷山の一角で、まだまだ他にもあるはずだといふ。

「5年で1000件以上というのは、私ども日本臨床整形外科学会に報告された数にすぎません。私たちは主に開業している整形外科医の集まりですので、学会以外の整形外科医ももちろんいますし、お灸などによるやけどなら皮膚科など、別の診療科に行くと思います。また、病院に行かず泣き寝入りしている人も少なくないはずなので、実際には今回の調査で出た数字の何十倍もの健康被害が出ている恐れがあります」

脱臼や脱臼、マッサージ

接骨院や整骨院は医療機関ではないが、いくつかの条件をクリアすると健康保険が適用されるため、安くマッサージなどを受けられると人気だ。特に高齢者は腰痛など身体の痛みが出やすいため、日常的に通っている人も少なくない。そこでどういった健康被害が出ていたのだろうか。

典型例は腰痛で腰のマッサージを受けるときだといふ。必要以上に強い力で指圧されて骨が折れてしまうことがあるのだ。

「なかには患者が痛いと言っ

ているにもかかわらず、『痛いのを我慢しないと治らないよ』といつて施術を続け、骨折するといった被害もありました」(日本臨床整形外科学会医療システム委員会、以下同)

痛みをとりにつけて接骨院に行つたはずが、逆に被害にあつてしまうのだ。

ほかには、脱臼をしていたり、アキレス腱を断裂しているのにも関わらず、それに気がつかずに意味のないマッサージを繰り返したり、さらには、腰椎に転移したがんによる腰の痛みを見落とし、延々とマッサージをして結果的に

接骨院の数が増えすぎたのも一因

接骨院や整骨院はもともと、近くに整形外科がない人が骨折や脱臼したときに応急処置を施すためのところだった。そのため以前は「骨つぎ」とも呼ばれていたが、いまは整形外科医も増え、ほとんどの人が家の近くで整形外科にかかることができるようになった。

「にもかかわらず、接骨院などで働く柔道整復師の数は増え続け、いまや整形外科医の10倍以上います。接骨院の数も増えたので当然、過当競争